

令和6年6月11日

長崎県福祉保健部、長崎市原爆被爆対策部 御中

厚生労働省健康・生活衛生局

総務課原子爆弾被爆者援護対策室

被爆体験記調査の結果について（報告）

令和5年2月16日付で要望のあった国立原爆死没者追悼平和祈念館（以下、「祈念館」という。）が所蔵する被爆体験記の調査が完了したので、その結果を報告いたします。

（調査概要）

令和5年2月に長崎県、長崎市からの要望を受け、祈念館が所蔵する約13万件の被爆体験記の中から、長崎の被爆地域以外における雨や飛散物の記述の有無を調査したものであり、本調査を通じて、新たな事実や知見の収集を目指した。

（調査結果）

別添1のとおり、長崎における被爆地域以外の記述がある被爆体験記3,744件のうち、雨に関する記述が41件^(※)（3,744件の1.1%）、飛散物に関する記述が159件^(※)（3,744件の4.2%）確認された。

※　うち、少なくとも雨に関する記述14件、飛散物に関する記述32件については、第一種健康診断特例区域での体験であった。

別添1について、評価業務を外部委託し、統計学、疫学等の専門家のご意見をとりまとめたところ、別添2のとおりであり、今回の雨や飛散物の記述の有無によって、降雨等を客観的事実として捉えることはできなかったとの結果であった。

引き続き、天候そのものに関する記述（例えば、雨が降らなかった等の記述）を調査する。